
転生・・・だと・・・

アルダー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生・・・だど・・・

【Nコード】

N1249M

【作者名】

アルダー

【あらすじ】

普通の高校生だった少年がテンプレな死に方をして、またまた、テンプレな感じで色々なアニメやゲームの世界へ転生して

「原作？そんな物関係ねえ！ボコボコにしてやんよ！」な物語です。

チート、オリ主、俺TUEEE！、中二病氣的要素が苦手な人は、注意してください。

第0話 いきなり死亡・・・だと・・・？（前書き）

はじめまして。ゲーム好きな学生アルダーと申します。処女作品なので、駄文等などになっているかもしれませんが、温かく見守って下さい。

第0話 いきなり死亡・・・だと・・・？

今日も何時もと代わらない日が続くはずだった。あんな事が起きるなんて、想像もしなかった・・・。

俺は何処にでもいる普通の高校生だ。今日も何時ものように、学校へ行く為に歩き馴れた道を歩いていた時だった。

「ドカアーン！」突然体が横からの衝撃で吹き飛んだ。

？「何だ？体が・・・凄く痛てえ。」

そう感じたのもつかの間俺の意識は、途絶えた。突然の衝撃の原因を考えていた。

すると、段々目の前が白く染まっていく、

ここで俺は「もしかして、俺は死んだのか？」とさっきの衝撃の正体を考え理解し始めた。

第0話 いきなり死亡・・・だと・・・？（後書き）

いきなり主人公がテンプレな死に片をしました。 次回、これまた
テンプレな神様との会合です。 お楽しみに。

第0話・二障 テンプレ・・・だと???? (前書き)

テンプレに死んだ後は、テンプレに神様との出会いだね！

第0話・二障 テンプレ・・・だと????

真っ白になっていく視界の中をどうする事も出来ないのて歩いていくと、なんだか、広い部屋のような場所にでた。

すると前方にテレビをつけながら、ライトノベルを読んでいる幼女がいた。

??「人間って面白いですねえ〜（〜）あんな邪神をこんな萌えキャラにするなんて・・・ぷっふふ・・・」

いきなり色々ツッコミ所満載なんだが、俺はラノベを読みながら笑い転がっている幼女に声をかけてみた。

??「あの〜すいませんが此処はどこで、貴方は誰で俺は、どうなったんでしょう？」

??「ふえ？」

俺が話しかけるとラノベを読んでいた幼女がこちらの方を見た。

??「えつと？」

??「ああ！貴方でしたか。ついさっき誰かの魂が来たと思ったら・・・」

すると、ラノベを読んでいた幼女は何処から取出したか解らない分厚いファイルを取り出してパラパラめくり始めた。

??「え〜つと何々死因は？・・・なん・・・だと・・・？」

すると、なんだかファイルをめくっていた幼女がまるで驚愕した某死神代行漫画の登場人物のような顔になった。

??「あの〜？どうかしたのか？」

??「ひゃい！！」

固まっていた幼女に声をかけるとその幼女が突然

??「すいません。貴方が死んだのは、こちらのミスだったようです。寛大な心で許してください。（笑）」

??「???どういう事？」

??「つまり、・・・」

（少女説明中）

？「成る程。あんたは、神様で何らかの手違いで俺が死んだ。まあ許せ（笑）と言うことか？」

神（幼）「そうゆう事です。」

？「フザケルナヨ？だいたい何だ？そっちのミスなのに許せ（笑）だど？」

神（幼）「あわわわ・落ち着いて下さい。目のハイライトがなくなってます。恐いです（。D 11）あれですか？貴方が死んだ事によつてなにかの能力に目覚めたんですか？」

？「そうかも知れん。今ならあんたを17分割出来そうだ・・・」

神（幼）「ヒイイイ。ゴメンナサイ（泣）」

幼女（神？）が涙目になつて謝ってきた。

神（幼）「テンプレですけど何処か違う平行世界へ転生させてあげますから目のハイライトを戻して下さいお願いします。（涙目）」

？「まあ、そこまで言うならしかたない。」

この瞬間俺の転生が決まった。

第0話・二障 テンプレ・・・だと??? (後書き)

次回主人公の名前とかチート能力とかが明らかに

第0話―三障 チート・・・だと・・・（前書き）

頑張りました。主人公の能力は中二病ですがテンプレということで

第0話―三障 チート・・・だと・・・

幼女（神）「グス・・・（涙目）転生するにあたって貴方の体をチートに魔改造しましょう。」

本気泣きしていた幼女（自称神）が泣きやんで話しかけてきた。

？「少し質問したいんだが？」

幼（神）「なんですか？」

？「転生するのは、何故元の世界では駄目なんだ？」

幼（神）「魔改造したチートな存在になって元の世界に転生しても貴方の存在が異様になるだけで、漫画やアニメみたいな事にはなりませんよ？」

？「マジ？」

幼（神）「真剣と書いてマジです。貴方の元いた世界は、何処かの少女が憂鬱だったり、魔法と出会っわけでも無いですし、ロボットが落ちてきたり超能力バトルが起きたりもしない平凡な世界です。それでも良いなら、良いですけど？」

？「スマン。やっぱり転生先は、平行世界でいい。」

幼（神）「解りました。行く世界は後ほど決めるとして、貴方の能力ですが何か希望はありますか？」

？「制限は？」

幼（神）「私は結構偉い神様なんでそんなセコい事は言いません。物によりますが、何でも良いですよ。」

目の前の幼女は無い胸を誇らしげにしていた。

幼（神）「何か言いましたか？」

？「いいえ、べつに？何も言ってますん。（汗）」

幼（神）「で？どうするんですか？」

？「ならこんな感じで。」

～主人公説明中～

約二時間弱話しこんだ結果こうなった。

一・魔力、気力共に無限（F a t e風に現すとランクEX）

二・魔法の素質、武術の素質、頭脳すべて百年に一人の天才級（武器においては、担い手である。）

三・一度見た物を完全に理解し記憶（完全記憶能力）でき、二度と忘れない。（完全記憶保護能力）

四・すべてのゲーム、漫画、アニメに登場する技、魔法、魔術を使用できる（反動、リスク無し）

五・型月系作品に登場する全ての魔眼、固有結界を使用可能（魔眼は型月系だけでなく、他のゲーム作品の物も使用可能。ちなみにオン、オフ可能）

六・ゲームなどにでてくる宝具、武器、神器が全て使用可能（真名開放可能。）

七・半不老不死（18歳ぐらいまでは、普通に成長し、その後10歳から20歳くらいまで姿を変えられるようになる。）

八・星の本棚にアクセス可能（仮面ライダーWにでてくる物の強化版）

九・溢れ出すカリスマ（人間に対してだけで無く動物や魔獣、神獣、デバイス等にも通用する。）

十・思いつき、理解出来るものなら何でも作ることが出来る。（魔術書、武器、兵器、デバイス等）

幼（神）「中二病乙（笑）」

？「これの半分位はあんたが決めたんだろうが！」

幼（神）「はうう！怒らないで下さい。（涙目）」

？「解った。スマン。にしてもチート越えてバグキャラだなあゝ俺。」

幼（神）「本当ですね。もし、RPGとかで出てくるなら二週目からでてる裏Bossですね。倒せなくて匙を投げるほどの。」

？「テイ。ズ運命二に出てくるアイテム使つと切れる人なみだな。」

幼（神）「多分その人より質が悪いです。それより七番目と十番目の能力ですが・・・」

？「何か問題か？」

幼（神）「まず十番目の能力に名前を付けて下さい。アイディアが無いなら私が名付けますが？」

？「ふゝむ・・・ならせつかくだしお願いしようかな。」

幼（神）「解りました。なら　完全なる幻想の創造マスター・オブ・ファンタズムクリエイトなんてどうですか？」

？「じゝゝ」

幼（神）「ガン見しないでください！！中二臭いですがカッコイイじゃないですか！」

人には冷やかしておきながら、本人（幼女神？）も酷い中二病だった。

？「まあ、確かにカツコイイし気に入ったからそれで良い。ありがとうな。」

幼（神）「ポツ（赤）・・・」

？「どうした？顔が赤いが風邪か？」

幼（神）「べつべつにあんたの為に考えたんじゃないんだからね・・・勘違いしないでよね！！」

？「なぜそこで、あざとくなる？」

幼（神）「うるちやいうるちやい・・・ハッ！！まさか新手のスタド使いの攻撃か・・・？」

？「違っっの（バシッ）いちいちジヨ ヨ立ちしなくていいから。」

幼（神）「痛っ（ノー。）殴らないで下さい泣きますよ！？」

？「泣くのかよ！悪かった。スマン。それで七番目については？」

幼（神）「普通に不老不死にするのは、面白くないじゃないですか？テンプレだと真相の吸血鬼になったりしますけど、最近ギルティギアにはまっているので、あなたには、GERAギアになってもらいますけど良いよね？答えは聞いていません。という訳でハイ！！！」

目の前の神（少女）が指をならすと、いつの間にか手術台のような物に拘束されていた。

？「なっなにするだゝゆるさゝん！！」

幼（神）「ケツケツケツ生娘じゃあるまいし。というか、ノリいいですね。」

？「やめろゝシヨ □カーぶっ飛ばすぞゝ！」

こうして俺は魔改造された。

第0話―三障 チート・・・だと・・・（後書き）

こんな感じでシリアス成分少なめでギャグ、ネタ成分多めのコメディ主体でいきたいと思います。次回は、転生する世界を決めて旅立たせます。主人公の設定を書いたら、次から本編開始します。

第0話・終障 行き先決定・・・だと・・・（前書き）

第0話・二障で主人公の名前が三障で解るといつつ忘れてました。サーセン。新たな名前は、次回のオリジナルキャラ設定で。

第0話・終障 行き先決定・・・だど・・・

???「前回までの「転生・・・だど・・・」は。」

突然現れた強大な敵に次々と敗れる仲間たち。

仲間A「此処は俺に任せて先に行け!!」

仲間B「あばよ!お前達の事嫌いじゃなかったぜ!」

仲間C「君を守って死ねるなら本望さ。」

仲間D「最後にあいつの手料理食いたかったなあ・・・」

そして仲間達の死を乗り越え主人公は新たな力を発動する。

主人公「これが俺の本気だ!!!!!!くらえええ!!」

炸裂する新たな力。戦わなければ生き残れない。

幼(神)「たしか、こんな話だったはず。」

?「ねえよ!こんな展開!まだ本望始まってもねえよ!」

前回のあらすじ

翔「？改め、草薙翔です。このお話の主人公です。前回チート能力貰ったらギアに自称神様（幼女）に改造されました。・・死んだと思ったらいきなり人をやめてしまいました。・・。」

翔「もう、お婿にいけない・・（泣）」

幼（神）「何ですか？改造中に服を脱がせたぐらいで（色々凄かったです）が〃〃〃）べつに襲い掛かれた訳では無いのですから気にしないでください。」

翔「まったく。痛みは無かったけどトラウマ確定だよ。（哀）」

幼（神）「それでは、翔さんの魔改造も終わりましたし。転生一回目の平行世界を決めましょう！」

そう言うとは何処からともなく黒い上の方だけに穴が開いている箱を取り出した。

翔「何だ？その箱は？」

幼（神） 「先代技術を冒読せし抽選箱です。」

翔「何故にクトゥルー風にする？しかも何処かで聞いた感じがする。」

幼（神）「ニヤル子さん面白いよね。」

翔「そういえば、此处に来た時に読んでたな。」

幼（神）「早くこの穴に手を入れなよ」優しくね？」

翔「変な言い方するなよ。」「

幼（神）「この箱、紙でできてるんで気をつけないとすぐに潰れるんですよね。」

翔「その何処が先代技術を冒読してんだよ!？」

幼（神）「ある意味、紙製なので冒読は、していますよ。それより早く手を入れて、引いて下さい。ハリー！ハリー！ハリー！」

翔「わかったから静かにしてろ!!」「ズボツ ガサガサ」
え〜と09番。」

幼（神）「09番ですか。なにに・・・なんと、「魔法少女リリカルなのはA's」ですか。ヤッタネ!!おめでとうございます。」

翔「え〜と??」

幼（神）「ご存知無いのですか?それは、人生損してますよ!？」

翔「スマン。俺ゲームもアニメもロボット系とかRPG系しか知らん。」

幼（神）「なら、今から見ましょう。DVD持ってますから。」

「主人公、幼女（神）試聴中」

翔・幼（神）「いい話だな」（泣）」

翔「なるほど。確かにこの「八神 はやて」という少女はかわいそうだな。」

幼（神）「ですから、今からこの話の平行世界へ行って彼女の悲しみを救ってあげてください。」

翔「わかった。ならデバイス作くらないと・・・いくらギアでも流石にまずいだろう。魔王とか死神相手は？」

幼（神）「すでにバグキャラな貴方なら余裕なんですが・・・なら私がユニゾンデバイス作ってあげますから翔さんは、続編でも見て待っててください。」

翔「続編が有るのか？」

幼（神）「アニメは三部作ですDVDはそこに有るので楽しんでてください。」

翔「了解した。」

「少女製作中」

「主人公試聴中」

幼（神）「デバイス出来ましたよ〜！」

翔「こっちも全部見終わったところだ。」

そして幼（神）が渡してきたのは、白く光っている謎の物体だった。

幼（神）「その子は、まだ姿と名前がありません。翔さんが決めてあげて下さい。」

翔「なら、俺の好きなアニメから貰ってこいつの名前は、シー・ツィ C・Cだ。」

すると、発行体が更に光り輝き段々人の型になってきた。

C・C「はじめまして。マイ・ロード 御主人名前と姿をくれてありがとう。いかなる時も貴方と共に在り。共に歩む事を誓おう。」

光りが納まると、アニメ版ではなく、悪夢版のC・Cがひざまずいていた。

翔「ああ、これからよろしく頼む。（ニコッ）」

C・C「・・・＼＼＼（赤）イエス・マイ・ロード」

幼（神）「イチャイチャしてないで、いくらでも向こうでしてくれたいから。次は、向こうでの名前を決めて。」

C・C「なっ・・・＼＼私はべつに・・・ユニョユニョ・・・」

翔「元の□■　でわ駄目なのか？何？名前が発音できない？」

幼（神）「それは、元の世界での名前。魂も魔改造した今の翔さんは、その名前は使えません。」

翔「なに？本気か？ならどうするか？」

C・C「あの・・・私がマスターの名前を考えました。こんなのは、いかがでしょうか？・・・」

（デバイス提案中）

翔「中々いいなその名前。気に入ったぜ。」

C・C「ありがとうございます。マイ・ロード。」

幼（神）「これで、準備は終了ですね。それでは、逝ってらっしゃい。」

？「さて！漢字違ってね？ていつかなのはの世界でギアってどうなってる？能力の使い方は？！」

幼（神）「大丈夫です。そこは、ご都合主義です。能力の使い方は、マニュアルも渡しますが、基本的にフリーリングです。聞くな感じろ！！という感じです」

幼（神）「それでは、ハイツ！！」

幼女（神）が手を鳴らすと俺達の足元に大きなA N A（穴）が開いた。
↓ 急な浮遊感↓重力？が働く↓落ちる↑今ココ〃逝っ

てきます。

？&C・C「落〜ち〜る〜!!」

二人（二機？一人と一つ？）が穴から落ちて行くのを見届けながら彼女はこう言った。

幼（神）「餞別に教えてあげる。私の名前はアザトース（最高神）貴方の名前は覚えておくわ。元草薙 翔君。」

「なにいいい〜」と叫びながら俺達はこの世界から消えた。

第0話・終障 行き先決定・・・だと・・・（後書き）

長さは、どれぐらいが良いのだろうか？暫くは、本文前にショートコメント入れたいとおもいます。本編リリカルなのは編は、たぶん三期終了までやりますので、主人公の原作ブレイクを温かく見守ってください。なのは編が終わったら次は、何編が良いかなどコメントできれば、お願いします。次回は設定です。（ハハヅ

オリキャラ設定（前書き）

色々書いたら長くなった。後悔も反省もしていない。

オリキャラ設定

???「前回の「転生・・・だど・・・」は？

主人公「やめろ！それは、危険なんだ！」

主人公の弟「うるさい！兄さんには、分からないんだ!!」

そう叫ぶと少年はガイメモリを自らに使用した。

??「ダークネス!!」

すると、少年の体が異形の怪人に変身する

主人公「くそ！戦うしかないのか？」

すると、何所からかともなく現れる主人公の相棒

相棒「彼を倒してあの邪悪な力から解放するしかない。」

主人公「わかったよ相棒！いくぜ！」??「サイクロン」

相棒「そうこなくちゃ！」??「ジョーカー」

すると、主人公が突然意識を失って倒れ、相棒の体が二色の仮面ライダーとなる。

主人公／相棒「さあ、お前の罪を数えろ!!」

そう。彼らは、仮面ライダーWなのだ。

主人公「いくぜー!!うおおおおお!!」

元翔「これはひどい。まず俺に弟いないし。仮面ライダーでもない。」

C・C「しかし、マイ・ロードはWの右側の能力持っているでわありませんか?」

元翔「確かに持っているが、ほとんど別物だ。」

C・C「そうなのですか?」

元翔「そうだ。それより今回は、設定の回だろ?早くやるぞ。」

C・C「これを見れば、マイ・ロードのあんな秘密やこんな秘密が明らかに……。ハアハア楽しみだ。」

元翔「ゾクッ!何か嫌な気配まるで、俺の事を舐め回すような気配が……。!?」

C・C&・元翔「始めるよー!!」

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

主人公（HIRO）

名前：草薙 翔↓レオンハルト・K・クロスロード（以降本編ではレで表示）

所属：フリーの傭兵みたいなもの。

性別：美人な男（例えるなら、マクロスFの主人公：早乙女 アルト）↓男の娘（例えるなら、恋する乙女と守護の楯の主人公の女装時：山田 妙子）

出身世界：このお話では、ギアは古代ベルカの人造兵器なので詳しくは不明

年齢：外見年齢は9歳ぐらい（古代ベルカに産れてA・Sの物語開始の三カ月ほど前までとある世界の遺跡で眠っていたため正確な年齢は、不明）

身長：クロノより4センチほど高い

種族：人間↓ギア

性格：ボケ倒すユニゾンデバイスなどにツツコム苦労人体質。自分が守りたいと思う人に対しては、例え命を賭けても助けようとするが、それ以外の人物には、そっけない。能力無しでも老若男女問わず好意を寄せられるが、本人には自覚無し。特に異性からの好意には、ギャルゲー主人公も真っ青なほど鈍感。朴念仁から進化して朴

念神となっている。普段もそうだが、女装（服を女物にするだけ。）させると、絶世の美少女である。本人には自覚がなく、女装は嫌いな様子だが追い詰められると涙目になり、その時の破壊力は保護欲母性本能などを一気に煽り例え血みどろの戦争でも止まると言われている。反対に絶対に怒らせてはいけない人No.1。体験者は、皆何等かのトラウマが出来ると言われている為、「古代ベルカの鬼母神」と言うあだ名で呼ばれている。外見：山田 妙子のまま服装は、DMC4のネロと同じで腰ぐらゐまで伸びている炎髪（濃い赤色）蒼眼（濃い青色）

ジャケット展開時は、DMC4のダンテの服装になる。

魔導師ランク：EX（測定不能）

魔法光：白銀（濃すぎて白色に見える。）↓（ギア時）濃い虹色

デバイス：有人格型のアームデバイス↓インフィニット（人格は、C・Cがドロデレに対してクーデレ C・Vイメージは一色ヒカル）レオンのイメージにより変わるタイプは、剣型、銃型、槍型、龍手型、杖型、などがある。普段は逆ケルト十字型のネックレスタイプ

ギア変身時

2D対戦格闘ゲームへGUILTY GEARシリーズに登場するジャスティス（JUSTICE）のまま

この姿になるとセリフがカタカナになる。（ちなみに、レオンのC・Vイメージは、外見どうり男声の釘宮理恵）

所有レアスキル：「第0話―三障 チート・・・だ・・・」をご覧ください。

趣味：歌う事、動物と戯れる事、料理、昼寝、散歩、デバイスと自

分の改造。

好きな物：動物・家事全般・家族・友達・ブルーベリーサンデー（実は甘い物全般）・空気の綺麗な場所。

嫌いな物：軟派な人間・家族や友達を虐める人間・愚かな人間・苦い物（コーヒーも全く飲めない）。

参考資料：普段は平和主義で気が付くと木陰や公園のベンチ等で何等かの動物に埋もれて昼寝している。料理も上手く、下手な高級ホテルの料理よりも上手い。デザートも桃子さんが認める程である。上機嫌の時は歌を口ずさんでいる。

町内では、「彼の歌を聞くと良い事がある。」と都市伝説になっている。

性別は、第三の性別LEONである。

レ「俺の設定はこんなもんかな？とうか、参考資料の最後の性別LEONって何だよ？」

C・C「まあまあ、落ち着いてくださいマイ・ロード。まだ慌てる時間では有りません。ほら、ドイツ軍人は慌てません。」

レ「なんでまたそこでジョジョネタ！？そこに痺れ無いし、憧れねえよ?!」

C・C「先にネタを潰すとは、流石マイ・ロードです。私達は、以心伝心ですね。結婚しましょう。子供作りましょう。さあ、二人で

アヴァロン（理想郷）へ。いざー！ー！」

くぐぐぐぐぐオオー！

C・C「マッ、マイ・ロード？怒ってます？（汗）」

くぐぐぐぐぐオオー！

レ「C・C？覚悟は出来ているか？俺は出来ている。」

C・C「マイ・ロード？その「黒くて長いマイ・ロードの顔に似合わないそれ」でどうするのですか？」

レ「ああ、この俺の顔に似合わない黒くて長いもの（名状しがたいバールのような物）でな・・・」

C・C「それでオラオラですかあ？」

レ「NO！NO！NO！」

C・C「では、拳で鉄拳制裁ですかあ？」

レ「NO！NO！NO！」

C・C「では、両方でフルボッコですかあ？」

レ「YES！YES！YES！」

く此処から先はR指定く

く少年スーパーフルボッコタイム中く

???「アアー！このままだと目覚めてしまいますくダメく！」

？「もうお前は、手遅れだろ?!」

「暫くお待ち下さい。」

レ「まったく。誰に似たんだか？」

C・C「人(?)の反り血浴びながら余裕ですね。マイ・ロード？
しかし、そんなマイ・ロードの激しい愛情表現も受け止めるのが私
です。」

レ「馬鹿な事言っでないで、次はお前の版だろ？」

C・C「はい、了解しました。マイ・ロード。」

パートナー（HEROINE）

名前：C・C「シー・ツー」（クロディア・クロスロード）以降
本編では、シと表示。

所属：レオンの融合騎士

性別：女性

出身世界：レオンと同じ。

年齢：外見年齢18歳。実年齢はレオンと同じく不明。

身長：167？

種族：チート性能なレオン専用ユニゾンデバイス。

性格：主であるレオン命。溢れる忠義がよく鼻から出る。本人いわくドロデレ。レオン限定のDM
すざまじくプラス思考。紙一重で変態淑女。

外見：コードギアスのC・Cそのままの姿「悪夢版（ナイトメア・オブ・ナナリー版）」だが、髪の色が銀色に、目の色が翡翠色になっている。普段は、アニメ版のC・Cと同じような感じ（ゴスロリ等）。ジャケット展開時は、悪夢版のC・Cの姿。

魔導師ランク：SS

魔力光：薄いメタリックブルー

デバイス：本人がデバイスのため今の段階では、無し。しかし、一度見た術式なら使用可能。

ユニゾン状態：レオン自体がバグキャラなのであまりこの状態にならない。

外見：コードギアスに登場する黒き魔人ZERO（ゼロ「悪夢版」）である。

身長：185？

魔導師ランク：EX

魔力光：黒銀

レアスキル：次元連結システム（レオンとユニゾン状態でないと使用出来ない。数多ある次元に連結して無限に魔力を取り出す事が出来る。）

カッコイイ漢字変換システム（必殺技等をカッコイイ漢字に変換するシステム 例えば、スターライトブレイカー↓「星を殲滅せし極光の砲撃」）

趣味：主であるレオンの観察及び、レオンのNice Angleからの撮影（本人無許可）。レオンに猛烈にAttack（レオン本人は素でスルー）。

好きな物：レオン（いろんな意味で）。レオンが作った料理。

嫌いな物：レオンに仇なす物全て。

参考資料：レオンと共に八神家に居候している。八神家の母親ポジションを自称している。

彼女が撮る写真は、レオンファンクラブ（本人未公認）で数十万円の値が付いた物がある。

ユニゾン状態ではレオンとC・Cの声が混ざって聞こえる。（ちなみに、C・CのC、Vイメージはゆかな）

ユニゾン状態のZERO（悪夢版）仮面はパージ可能その時の顔は19歳ぐらいのレオンである。

シ「私の設定もこんなものですね。」

レ「いろいろ聞きたいんだが？」

シ「何ですか？スリーSizeですか？ 上から8」

レ「そんなもん聞きたく無い。」

シ「ガアアン！？そんなもんって（泣）（Ｔ・Ｔ）」

レ「後で聞いてやるから。」

シ「マジですか？！マイ・ロード？」

レ「はぁ。では、そろそろ」

レ&シ「サヨナラ」

オリキャラ設定（後書き）

次回から漸く、本編開始よろしく願います。

なのはA・S偏第一話前

「これが・俺・」(前書き)

なんとなく前偏後偏にしてみた。

なのはA・S 偏第一話前

「これが・俺・」

???「前回までの「転成・だと・」は？」

???「怯えろ!! 疎め!! モビルスーツの性能を活かせぬまま死んでいけ!!」

主人公「守つたら負ける!! 攻めろ!!」

???「中々やるではないか!! 貴様!？」

主人公「俺は、お前を倒してC・Cと添い遂げる!!」

???「何?! 貴様が、C・C様の!？」

主人公「倍返しだああ!!!!!!」

???「C・C様、どうやら合流出来そうにありません。自分は、死に場所を見つけました。」

主人公の攻撃が???に直撃した。

???「C・C様の思い人と出会う・面白い人生であった!!」

主人公は、???を倒した。しかし、新たにC・Cの兄が立ち塞がる。

???「フハアハハハハハハア!!」

主人公は、無事にC・Cと添い遂げる事が出来るのか？

主人公「俺は、軍を抜ける！！！」

はたして、主人公の運命やいかに？

シ「確か、前はこんな感じだったはずですよ。」

レ「またまたツツコミ所満載だな。スルーしよう。」

シ「ツツコミ無しですか！？酷いですマイ・ロード！！放置プレイですか？でも・・・これは、これで・・・ビクンビクン！！！」

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

幼女（神）「アザトース（最高神）だった↓穴に落とされた↓目覚めたら真っ暗でなんだか液体の中にいる↑今ココ

レ「とりあえず、転生したと思うが、此処はどこだ？」

目の前は真っ暗なだけで何もなかった。

レ（状況が全くわからん。念話でＣ・Ｃを呼ぶか。）

レ「（Ｃ・Ｃ。今何処に居る？）」

シ「（マイ・ロード。ただ今、マイ・ロードの居場所を探知しました。もう少しお待ち下さい。）」

「デバイス散策中」

「プシュ」

そんな音とともに、俺の視界に光が見えた。

「ザパアア」

俺が浸かっていた謎の液体が排出された。

シ「大丈夫ですか？マイ・ロード。此処はどうやら、ハッ………！」

俺の様子を診ていたＣ・Ｃが突然何かに気が付くと

たらし……

Ｃ・Ｃの鼻から溢れる忠義が溢れ出していた。

レ「????いきなりどうした?大丈夫か?」

俺がそう聞くと、C・Cは、

シ「だいじようびです(大丈夫です)とりあえず(とりあえず)、ぶぐをぎでください(服を着てください)。」

そう言われて自分の姿を見ると、何も着ていないZENR
A(全裸)だった。

シ「裸で何が悪い!!」

レ「何か言ったか?」

シ「いえ。言ってみたかっただけです。」

とりあえず、能力を使って服を出した。

「主人公着替え中」

着替えながら、今の自分の体を確認する。

だいたい身長的に俺の九歳頃。

なにもしなくても解る程に力を秘めた体。

何故か腰ぐらいまで伸びた、濃い赤色の髪。

そして胸筋の真ん中辺りにあるギアの烙印。

さらに、全体的に整った美少女としか思えない顔。赤い髪と蒼い瞳がさらにマツチしている。

レ（ん？）

美少女としか思えない顔。

レ「なんじゃ〜これ〜！！！！？？」

シ「落ち着いて下さい。マイ・ロード。私は、マイ・ロードの前の顔も今の顔も良いと思いますよ？」

レ「そんな問題じゃ無い。声までハスキーボイスかよ！？！？」

シ「マイ・ロード。神様からいただいた、「LEON君マニュアル」技・能力・魔法偏これで君もチート主人公だ！〜偏」に、手紙が。」

「神様」これを読んでいるということは、無事に転生できたんだね。おめでとう！！（＾Ｏ＾）／。外見の指示がなかったので今、巷で人気の男の娘にしました。↑（＾Ｏ＾）v。では楽しんでね。by アザトース」

レ「あのクソ邪神がぁ！！！！。▲○○。💲💲£∞\$！」

シ「マイ・ロード！？何言っているのか意味不明になってますよ！！「心は熱く頭は冷静に」です。澄み切った心で明鏡止水です。」

「主人公錯乱中」

レ「すまん。取り乱した。とりあえず、現状報告を頼む。」

シ「イエス・マイ・ロード。では現状ですが、どうやら此処は、古代ベルカ時代の遺跡の様子です。データによれば、マイ・ロードは古代ベルカ時代に生まれた人造兵器のようです。私はその整備やサポートなどの多目的用に作られた事になってます。」

レ「これが神の言っていた魔法の言葉「ご都合主義」か。」

シ「はい。しかも、マイ・ロード以外のギアは、既に破壊されその後、研究された様子ですが全て失敗して残ったギアは、マイ・ロードのみのようです。」

レ「魔法の言葉すげー。なら、ギア化してみるか。ワクワク」

シ「マニュアルによれば、烙印に力を貯めて、それを纏うイメージだそうです。」

レ「了解！ハアアア」

力を烙印に貯めるイメージをすると、ギアの烙印が光り始めた。

「ピカアアン！！」

俺の体が光に包まれると同時に変化を感じた。

レ「G u a a aアア！！！！」

自分でも今自分の姿が変化したのがわかる。

シ「・・・・・・・・」

C・Cが俺の姿を見て言葉を失っていた。

レ「ドウシタ？ナニカヘンカ？」

シ「いいえ。余りにカツコイイお姿に言葉を失っただけです。マイ・ロード。」

レ「ソウナノカ？マア、イイ。」

床に流れ出していた謎の液体に今の姿が写る。そこに居たのは炎髪蒼眼のジャステイス（ラスB O S S）だった。

なのはA・S偏第一話前

「これが・俺・」(後書き)

釘宮声のジャスティスってある意味ハガ鍊のアルフォンスじゃねえ？

なのはA・s偏第一話後 「これが俺の力だ!!」 (前書き)

今回も長めです。疲れた。

ジャステイスの技について一部。

インペリアルレイ 「GGX+」

頭部から回転する軌道でレーザーを浴びせる。『GG』の頃は威力はそのまま通常**の必殺技**という極めて凶悪なものだった

なのはA・S 偏第一話後 「これが俺の力だ!!」

??? 「前回の「転生・だと・・・」は？」

「それは、とある一枚の写真から始まった」

??? 「この写真は？なに!!」

「ブツシアアアアア」

??? 「駄目だ。すでに亡くなってる。」

そこには、血まみれの死体が!!

??? 「犯人かもしれん連中と同じ部屋にいれるか!!」

「ブツシアアアアア」

??? 「今怪しい奴を見た追いかけてくる」

「ブツシアアアアア」

次々倒れていく人々そしてある人物が語る真実とは？

C・C 「この事件の元凶は、この「レオンの生着替え写真」です。」

ついに明かされた真実主人公はその時どうするのか？

主人公「なん・・・だと・・・！」

レ「なんだ？これ？ふざけてるのか？」

シ「マイ・ロードの生写真ならしかたない。」

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

ギア化した↓C・C沈黙↓姿は、まんまジャスティス（JUST
ICE） だった↑今ここ

レ「マンマ、ジャスティス（JUSTICE） カヨ。」

シ「（カッコイイ）マイ・ロードよく個体名まで分かりましたね？」

レ「コタイメイ？」

シ「はい、マイ・ロードの個体名は、GEAR・TYPE・IMASTER 0001 CORD JUSTICEです。」

レ「トリアエズ、ヘンシンカイジョ・・・よく知ってたな。」

シ「マイ・ロードが入っていたポッドの表明に書いてありました。」

レ「そうか・・・次は、能力の確認するか。」

シ「イエス・マイ・ロード。「LEON君マニュアル」技・能力・魔法偏これで君もチート主人公だ！」偏」によりますと、とりあえず「王の財宝」（ゲート・オブ・バビロン）を使えますそれからDATA！と書いてます。」

レ「どうやるんだ？」

シ「背中の方から扉を開ける感じ、コマンドにすると」「↓←→↑PK」だそうです。」

シ「本当かよ・・・」

「ヴィイイン」

シ「できた・・・」

シ「なら、中へ行きましょう」

レ「入れんのか？」

シ「マニュアルによると、マイ・ロードの（ゲート・オブ・バビロン）は、すでに一つの別空間へのゲートになっているらしいです。」

レ「俺ってバグキャラだなあ。」

二人でゲート・オブ・バビロンへ入る

レ「本気で別空間になってるし・・・にしても武器だらけだな・・・？あれは？」

レオンは、一見ただの特徴もないフォークを見つけた。

シ「それは、ただのフォーク（邪神を調教せし食器）ですね。とある人間の少年が同居していた旧支配者たちに使用するうちに邪神の血を吸い続け、ついに神殺しの特性を持ったとされる宝具です。」

レ「そうか・・・。ならこれは？」

レオンは、目の前にあったネギを指差した。

シ「それは、魔剣ドンパッチソードですね。えーっと・・・」

レ「いや、説明はいらない。」

シ「そうですか。えっと、中ではギア化した時の技を練習しろ！と書いてます。」

レ「たしかに、技とか魔法なんかの使い方は、頭にすぐに思いつくな。　なんで、変身！・・・」

レ「シヤアアアアア！！！！」

再びギア化する。

レ「ギアニナルト、キブンガコウヨウスルナ。」

シ「そうなんですか？」

レ「トリアエズ、キホンワザ　「N・B」！！　ハンノウデ
キルカナ？」

「ヒュユユ」

「ズカアアアアン！！！！」

「N・B」が着弾した場所に半径5メートルぐらいのクレーターができた。

レ「ポカーン」

シ「ポカーン」

結果：やはりバグキャラだった。

シ「非殺傷設定でこれですか。さすがマイ・ロードです。適当にターゲットを召還しますので、続きをどうぞ。」

傀儡兵A（ランクS）が現れた。

レ「S・B・T・（ストライクバックテイル）！！」

傀儡兵Aは、黒こげになった。

傀儡兵B（ランクA）が現れた。

レ「ミカエルソード！！」

傀儡兵Bは、真っ二つになった。

傀儡兵CとH（ランクA）が現れた。

レ「ミカエルブレード!!」

傀儡兵CとHは、斬り裂かれた。

傀儡兵IとP（ランクA）が現れた。

レ「インペリアルレイ!!」

傀儡兵IとPは、跡形もなくなった。

傀儡兵QとZ（ランクA）が現れた。

レ「ガンマレイ!!」

傀儡兵QとZは、蒸発した。

シ「すごいです!!マイ・ロード。」

レ「タメシタイコトガアル。ターゲットヲ、ダセルダケダシテクレ。」

シ「？解りました。」

見渡す限りいっばいに傀儡兵（ランクA）が現れた。

レ「ガンマレイー！！ソシテ「ロマンキャンセル」ヲツカッテ」

「ズガアアアアン！！！」

「ただ今殲滅中」

シ「約3000体の殲滅時間約3分 本体ダメージ0% マイ・ロードは化け物か？」

レ「バケモノダガ？」

シ「ですよ。人造兵器ですし。」

レ「ヘンシンカイジヨ。これでは駄目だな。威力が強すぎる。アイムドデバイスでも作るか。」

シ「マイ・ロード！？私を捨てるんですか？そんな嫌です捨てないで！！！」

Ｃ・Ｃが泣きついてきた。

レ「モガアモガア……」

シ「あれ？マイ・ロード？」

「？？？」説明しよう。今のレオンの体は、９歳の子供。Ｃ・Ｃの体は１８歳くらいレオンがバグキャラでも厳しいのである。」

レ「キュウ。ガク。」

シ「ああ、マイ・ロードの口から出ていけない魂っぽいものが……。マイ・ロード私を置いていかないでください。（涙）」

（主人公蘇生中）

レ「殺す気か……！」

シ「すいません。反省しています。（正座中）でもマイ・ロードはいい匂いがしたので、後悔はしていません。」

レ「ハアア。まあいい。それより、デバイス作るから手伝ってくれ。」

シ「解りました。マイ・ロードはツンデレですね？解ります。さっ
そく二人の初めての共同作業を！！！」

レ「……（冷たい視線）」

シ「ツンデレの次は、クーデレですか？」

「デバイス製作中」

レ「よし。デバイスOK。技、能力、魔術などの確認OK。方針は
まず、ぬこ姉妹とグレアムのおっさんをまずどうにかする。」

シ「どうするんです？」

レ「ぬこ姉妹に関しては、俺に考えがある。グレアムのおっさん
も何とかできる。」

シ「後注意するのはKY^{クロ}ぐらいですね。 でわ、地球の海鳴市へ
転移します。」

なのはA・S 偏第一話後 「これが俺の力だ!!」 (後書き)

結構好き勝手した。後悔はしていない。

ジャステイスの技について一部。

N・B・「GGX+」(FRC) (N・B・起爆)

一見、火の粉のような爆発する気弾を発射する。S版は真直ぐ、H版は上空へ弧を描く形で、それぞれゆっくりと移動する。ほかの飛び道具と違って判定がないので相殺される事がない。下記のN・B・起爆を入力するか、相手に触れると爆発。ちなみに「GGX+」では名無しの隠し必殺技となっている。

S・B・T・「GG」

後転をして雷撃を発生させる。S・B・T・はストライク・バック・テイルの略で「GG」、「GGX+」などでは「ストライクバックテイル」と表記してある。

なのはA・S偏第二話「First Contact」(前書き)

すいません。リアルが忙しいので更新速度が遅れます。こんな小説でも見捨てないでやってください。

なのはA・s 偏第二話「First Contact」

???「前回の「転生・・・だど・・・」は？」

平穏な日常。それは永遠に続くかと思われていた。しかし、
「キシャー」

突如として現れる異様な生命体。

人々は、蹂躪され絶望した。しかし、とある青年に突如として覚醒する力。

主人公「この力で、僕はみんなを救う!!」

苛烈を極めていく戦い。

仲間1「こいつは、俺が倒す。」

仲間2「行け!!!お前は人類の希望だ。」

仲間3「勘違いするな。貴様を倒すのは俺だ。だから、さつさと先に行け！！！」

・ 様々な仲間や友と出会いと別れを繰り返し、戦いは最終曲名へ・・・

「???」
「£¢§!∞」

主人公「いくぞ！これが最後の戦いだ！！！！！」

はたして、主人公の運命はいかに??

今最後の戦いの幕があがる。

レ「いつもながら酷いな。」

シ「さあ？いつもながらの作者の妄想ですね。でもいつかこんな展開になるかもしれません。」

レ「なん・・・だと？」

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

車椅子の少女（以降「は」）「えつと・突然光ったと思ったら人が二人おる。これは、どうゆう状態や？」

「えっ……」

何故こんな事になっているかというところ、少し時間を遡る……

少し前

↓ は や て side ↑

今日もいつものとりに、病院へ定期検診の帰り道やった。

その日は、気分転換に公園に寄って帰ろうとした。すると、木が生い茂ってる場所が突然光りだした。

は「なんや？なんや？もしかして、未知との遭遇かなんかか？」

私はつきつきしながら近ずいて行った。

↓はやてside end↑

↓レオンside↑

あれから一旦違うドラゴンなどしかない世界へ行き、自分とCの戦力を確かめてから地球へ転位した。

レ「ここは、地球か？」

シ「イエスマイ・ロード予定どおり地球の鳴海市です。」

レ「よし。なら予定どりに、ま「なんや？なんや？もしかして、未知との遭遇かなんかか？」・・・なに？」

突然の第三者の声にCと一緒に振り返るとそこには、車椅子に乗った子狸。もとい、車椅子に乗った少女 八神 はやて がいた。

↓レオン side end ↑

「時は戻って今」

レ（どうすんだよ？いきなり接触しちゃったじゃねえか！？）

シ（困りましたねえ。どうしましょう。）

レ（だいたい、転送先がなんで公園なんだよ？もっと人目につかない所があるだろうが！！）

シ（すいません。反省してます。）

は「もしもし？日本語理解できとる？」

レ「ああ。通じているよ。」

は「ほなあんたらは？ ハッ！ まさか、この街でなんでも願い事が叶う聖杯的な物を賭けた戦いが始まって、それによって無意識に私が召喚してしもたんか！！」

シ「サーント「キヤスター」召喚に応じて参上しました。問おう。貴女が我らのマスターか？」

レ「なんでやねん！！」

「ビシイ」 「バシイ」

レ「後、そっちの子狸は中の人ネタか？！」

は「イタツ！ナイスツツコミ。後、子狸って言うな！それに中の人ネタってなんや！？」

レ「すまん。こっちの話した。俺達の事だったな今話すよ。」

それから俺は肝心な所は、はぐらかして説明した。

レ「・・・と、そんな感じだ。」

は「なるほど。レオン君達は、とある理由でこの世界にやって来た

魔法使いやと。そうゆう事かいな。」

シ「はい。信じていただけのかわかりませんが。」

は「解った。信じるわ。それに、二人とも住む所あるん？よかったら私の家に来うへん？」

レ「いいのか？」

は「かまえへんよ。私一人暮らしやから。あの家は、一人やと大きいんや。」

レ「なら、世話になるよ。」

は「ほんまか？うれしいわ。ほな早速行こか。」

レ「はやて！」

は「なんや？レオン君？」

はやてがこちらに振り向くと同時に俺達は騎士のようにひざまづく。

レ&シ「これより我等は貴女の剣となり盾となる事を誓います。
心優しき夜天の王よ。」

は「なんなん？二人して急に？それに夜天の王ってなんや？」

レ「それは、いずれ話すよ。」

こうして、俺達ははやてとのFirstContactは終了した。

なのはA・S偏第二話「First Contact」(後書き)

シ「次回の「転生・・・だど・・・」は？」

「レオン錬成する。」

「C・Cの計画」

「turn25：Re：」

シ「の三本です。お楽しみに！」

なのはA・S偏第二・五話「First Contactその後」(前書き)

これからは、一週間に二話ぐらいのペースで更新します。

なのはA・s 偏第二・五話「First Contactその後」

「前回予告していた話ですが、予定を変更して「転生・・・だと・・・」をお贈りします。」

??「前回の「転生・・・だと・・・」は？」

突然巻き込まれた影時間。その時間に現れる怪物「シャドウ」との戦い。

主人公「ペ・ル・ソ・ナ！」

そして、目覚める力。

仲間A「一緒に戦うぞ。」

仲間B「がんばろう!!」

仲間C「君にリーダーになってもらいたい。」

様々な仲間との出会い。

仲間D「お前のせいじゃない。泣くな。」

そして、別れ。

??「僕は、君の中にいたんだ。」

明かされる数年前の真実！！そして、主人公は！？

主人公「これが、人類全ての戦いだ。」

レ「今回はどうしたんだ？」

シ「作者によると、「PPPのエリザベスとマーガレット撃破したので嬉しくてやった。後悔はしていない。」だそうです。」

レ「そうか。まあ二週間かけてたから大目に見てやるか。」

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

シ「地球に着いた。↓子狸に出会った。↓家に案内された。↑今
こころ」という感じです。」

レ「誰に説明してんだ？」

「シ、氣にしないでくださいマイ・ロード。氣にしたら負けです。」

は「なにしてんの？二人共、此処が私の家や。どうや？大きいやろ？」

シ「確かに大きいですね。なにか、いわくつきですか？」

「んなわけあるかい！！」

レ「今から世話になる家にたいして失礼だろ。」

シ「すいません。マイ・ロード。後ついではやて。」

は「私はついでかい！？まあ、ええわ。ほな遠慮せんに入って。」

レ「ああ。失礼する。」

レオン達は、八神家へ入った。はやての寂しさが20さがった。Cの図々しさが8上がった。レオンの気苦労が28上がった。レオンは「気苦労人」から「苦労人」にランクアップした。

レ「なんだか、嫌なステータスが上がった気がする。」

は「ほな空いてる部屋を好きに使ってくれていいから。」

シ「なら、マイ・ロードと同じへ・・・バラすぞ。」じゃなくて、隣の部屋がいいです。」

は「ほな、此処と此処使い。」

レ「何から何まですまん。今日は、俺が料理を作ろう。」

は「そんなわるいで。お客さんに作らせるなんて。」

シ「そんな事ありませんよ。レオン様は料理上手ですし。私達も
う家族みたいなものですよ。」

は「・・・うん。ほんま、ありがとう。」

その後、はやてが泣き止むのを待つて三人で夕飯を食べた。はやて
いわく、「外で食べるんよりうまいかもしれん。」と大変好評だっ
た。

こうして、俺達とはやてとの最初の日が終わった。

くおまけく

それは、レオンが風呂から上がって来た時の事だった。

は「なあなあレオン君って本当に男の子なん？」

レ「はい？当たり前だろ。はやてだってレオン君って呼んでるじゃないか？」

は「でも、その顔といい綺麗な髪といい女の子みたいやで？」

レ「そんな事言っただって、顔は生まれつきだし、髪はC・Cが勿体ないって切らせてくれないんだよ。」

は「ふん。．．こうなったら直接確かめるしかあれへんな。」

はやての飛びかかる攻撃！！

レ「なにする気だあ？」

レオンは突然の事に怯えている。

は「そんな反応されるとなんかこうムラムラくるわ。さて、確かめよか。」

はやてのパジャマ（上）を剥がす攻撃。

「ブシャアアア」

はやてに9999ダメージ＋魅了ダメージ。はやては大量出血（鼻血）した。はやては倒れた。

その後、C・Cにより（はやての鼻血で）血まみれのレオンと、なぜか満足した顔のはやてが発見された。はやては、その時の記憶がないように「なんか、いいもん見た気がする。」とコメントしている。

なのはA・S偏第二・五話「First Contactその後」(後書き)

忙しくて余りゲームできてないと思ったら積みゲーが20個あった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1249m/>

転生・・・だと・・・

2010年10月14日16時36分発行